

第1学年1組 国語科学習指導案

令和4年11月7日（月）第5校時

指導者 教諭 落合 陽介

1 単元名・教材名 1年1組野鳥学会で研究結果を発表しよう・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

2 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、1学期に『ダイコンは大きな根？』や『ちょっと立ち止まって』の教材を用いた学習で、段落の役割や要約の仕方について学習をしてきた。文章の大まかな構成や内容については多くの生徒が理解することができる。一方で、本文に書かれた情報が「事実」か「考え」なのかを注意しながら読むこと、自分に必要な情報を抜き出して活用することが課題と言える。

本単元では、文章に書かれた内容を発表用スライドに再構成して、「1年〇組野鳥学会」で発表するという活動を行う。与えられた文章を読むだけでなく、文章に書かれた内容をスライドに再構成する活動に取り組むことにより、生徒は一つ一つの情報について注意深く読み取る必要性を感じ、意見か事実かを判断するなど慎重に吟味しながら、情報と情報の関係について理解を深めることができると思う。

指導にあたっては、グループで5つのまとまりを分担させ、その内容を発表させる。同じまとまりの担当者同士を近くの席に配置するなど、学習形態を工夫しながら学習を進めていく。また、個別最適な学びの観点から、発表原稿や補助スライドについては、紙で作成するか、一人一台端末を用いて作成するかを生徒に選択させ、自分にあった学習ツールを用いて、発表会に向けて取り組ませる。

3 単元の目標

(1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

〈知識及び技能〉(2)ア

(2) 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ア

(3) 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ

(4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

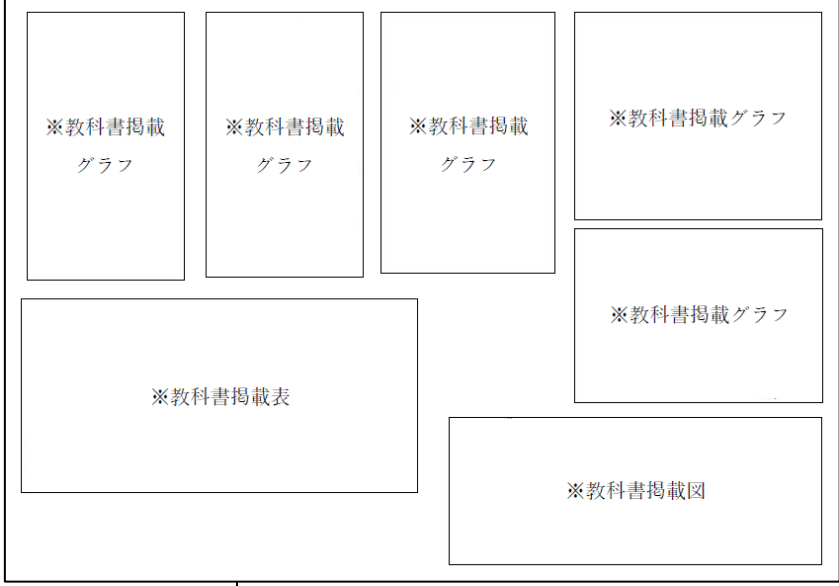
文章に書かれた内容を発表原稿や補助スライドに再構成し、発表する。(関連：言語活動例ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	①「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) ②「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	①粘り強く文章を読んで文章の構成や展開について考え、学習課題に沿って、自分の考えを文章にまとめたり伝え合ったりしようとしている。

6 指導と評価の計画（全5時間）

	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○学習のねらいや進め方を理解し、学習の見通しをもつ。 ○本文を通読する。 ○文章の構成を捉える。	○文脈上の語句の意味 ○文章の構成	○生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう、単元のゴールを明確に示す。 ○学会発表のイメージをつかませるため、「学会発表」の映像を見せる。 ○シジュウカラの鳴き声を音声資料で示し、本文への興味関心を高める。 ○文章は①前提となる知識②研究のきっかけと仮説③仮説の検証1④仮説の検証2⑤結論の5つの部分から成っていることを押さえる。 【思考・判断・表現①】 ノートの記述内容 ・ここでは、文章の内容と教師から与えられたまとまりの見出しをもとに、文章の構成を正しく捉えているかを確認する。
2	○グループで、文章の5つの部分を分担し、自分の担当する部分を決める。 ○発表原稿と補助スライドを作成する。	○文章の展開 ○事実と考えの区別 ○各まとまりの説明のポイント	○それぞれのまとまりの説明のポイントを説明する。 ○発表原稿や補助スライドを紙で作るか、タブレットで作るかを生徒に選択させる。 ※本単元では、発表原稿や補助スライドを紙で作成するか、タブレットで作成するかを生徒に選択させる。また、単元の途中で、ツールを変えることも自由とする。 【知識・技能①】 ワークシート ・ここでは、考えと事実を区別しながら文章を読み、それぞれのまとまりの内容を正しく捉えているかを確認する。

	学習ツールを生徒に選択させる。写真左の生徒は紙で補助スライドを作成し、右の生徒はタブレットで補助スライドを作成している。	
	紙で補助スライドを作成する生徒には、教科書に掲載してあるグラフ等をプリントで配布（右図）し、自由に切り貼りできるようにする。 一人一台端末で作成する生徒には、グラフ等を1枚のスライドにまとめ、データで送信する。	
3 (本時)	○発表原稿と補助スライドを作成する。 ○同じ部分を担当する生徒同士でグループになり、発表し合う。 ○発表内容を比較し、発表原稿や補助スライドを修正する。	○事実と考えの区別 ○事実と考えの伝え方の違い ○発表の仕方 ○発表を聞く観点 ○「野鳥学会で発表する」という活動を再確認させ、発表では、筆者の考えと事実とを区別しながら発表することが重要であることを理解させる。 ○聞き手が事実と意見を区別しながら発表を聞けるよう、事実「～です」、考えは「～考えます。」などと、伝え方を変えるよう指導する。 ○グループで発表する際、聞く観点を明確に示し、発表後に修正しやすくする。 【主体的に学習に取り組む態度①】 発表原稿、補助スライド、観察 ・ここでは、グループでの発表を踏まえ、発表原稿や補助スライドの内容をよりよくしようとしているかを確認する。

4	○グループでスライドをつなぎ合わせ、発表の練習をする。 ○発表練習を通して気付いた部分をグループ内で伝え合い、必要に応じて、修正をする。	○発表の仕方 ○事実と考えの伝え方の違い	○発表内容が、本文の内容や展開と相違ないか確認するよう促す。 【主体的に学習に取り組む態度①】 発表原稿、補助スライド、観察 ・ここでは積極的に話し合ったり、修正をしたりして、発表内容をよりよくしようとしているかを確認する。
5	○「1年1組野鳥学会」を開き、補助スライドを用いて発表をする。 ○発表会を通して気付いた筆者の説明の工夫について話し合う。 ○学習の振り返りをする。	○発表の仕方 ○筆者の説明の工夫	○発表を聞く際、事実か考えかを区別できるか注意しながら聞くよう指導する。 ○文章の構成や展開を可視化し、筆者の説明の工夫について考えやすくする。 【知識・技能①】 発表原稿 ・ここでは、各部分の内容を事実と考えに正しく区別して発表しているかを確認する。 【思考・判断・表現②】 ワークシート、話し合い ・ここでは、根拠を示しながら、筆者の説明の工夫について理解しているかを確認する。

7 本時の学習指導（本時4/5時）

(1) 目標

- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
＜学びに向かう力、人間性等＞

(2) 評価規準

- 粘り強く文章を読んで文章の構成や展開について考え、学習課題に沿って、自分の考えを文章にまとめたり伝え合ったりしようとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

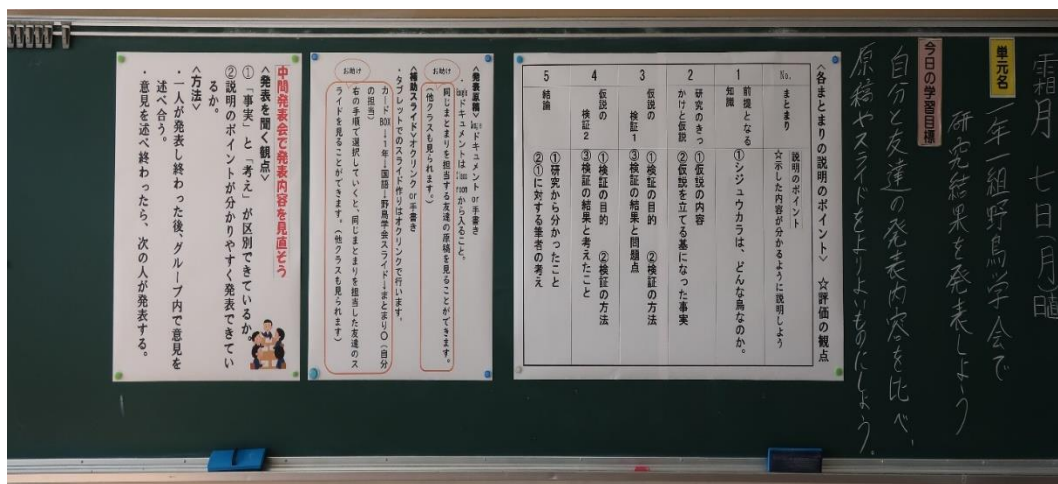
(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。		○本時の目標を明確に示し、意欲を高める。	2
自分と友達の発表内容を比べ、原稿やスライドをよりよいものにしよう。			
2 発表原稿と補助スライドを作成する。	○事実と考えの区別 ○事実と考えの伝え方の違い ○各まとまりの説明のポイント	○活動前に、各まとまりの説明のポイントを確認する。 ○原稿やスライドの作成途中で、用いるツールを紙からタブレット、タブレットから紙に変えることは自由であることを伝える。	20

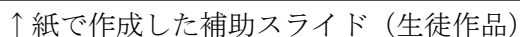
3 中間発表会の方法について知る。	○発表の仕方 ○発表を聞く観点	○発表を聞く観点を明確にし、発表会後に各自で修正しやすいようにする。	3
4 中間発表会を行う。	○事実と考えの区別 ○文章の要旨 ○発表内容の比較 ○修正の仕方	○3人～4人のグループにする。 ○1人の発表が終わった後に、発表内容について、コメントするよう指示する。	15
5 発表会を踏まえ、発表原稿と補助スライドを修正する。		評価規準 【主体的に学習に取り組む態度】 発表原稿、補助スライド、観察 - ここでは、中間発表会での自分の気付きや仲間からの意見をもとに発表原稿や補助スライドをよりよいものに修正しようとしているかを確認する。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> - 中間発表会を通して、どんなことに気付いたか、また仲間からどんな意見をもらったかを個別に確認し、原稿やスライドのどの部分に生かせるかを確認させる。	8
6 学習の振り返りをする。		○本時の目標を再確認させ、学習の振り返りを記入させる。	2
期待される生徒の記述 同じまとまりを担当している人と発表をし合い、自分の発表に足りないところについて気が付くことができた。また、仲間から意見をもらい、スライドをよりよいものにすることもできた。次回の発表練習では、本文の内容や構成と合っているかを確認しながら頑張っ取り組みたい。			

8 備考

<板書計画>



(1) 補助スライド

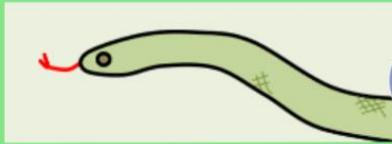


過去の観察で見つけた事実

蛇を見つけると「ジャージャー」と鳴く

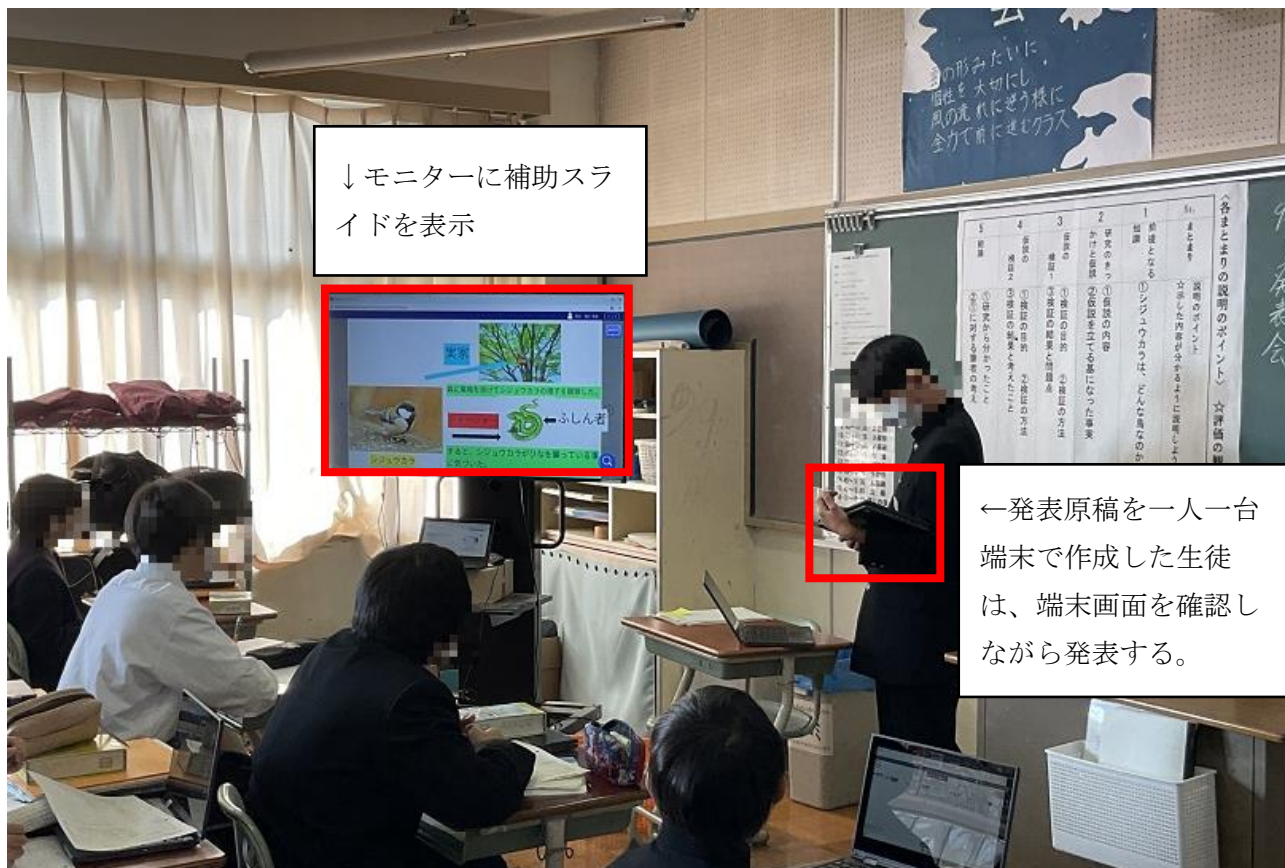
ジャージャーの
本当の意味とは

蛇なのか、何なのか...



(ミライシード「オクリンク」を使用)

(2) 発表会の様子



↑聞き手は、各グループの発表後に評価を一人一台端末に入力する。発表者は、発表後すぐに、聞き手からの評価を知ることができる。
(ミライシード「ムーブノート」を使用)

(3) 発表原稿

この2つの実験結果から、「ジャージャー」という鳴き声は「へび」を表す”単語”であることが証明されました。また、私達の身近にいるシジュウカラにも蛇などを表す”単語”があり、それを聞いたシジュウカラが協力して蛇を追いかう上で役立っていることがわかりました。

長年 研究者の間では、動物の鳴き声は喜びや怒りなどの単なる感情の表れであり、物の存在や出来事を伝える単語ではない。言葉を持つのは人間のみだと信じられてきました。

そのため、動物の鳴き声に関する研究が十分に進められていませんでした。ですが、今回の実験で人間以外に複数の単語を組み合わせた能力が実証されたのはシジュウカラが初めてです。

このシジュウカラのジャージャーという鳴き声は、蛇を意味する特殊な鳴き声を卵やヒナを守るために 進化の過程で手に入れたと考えられます。

今後、動物の鳴き声に関する研究が盛んになっていくことで、シジュウカラ以外にも「言葉」を持つ動物の存在が明らかになっていくかもしれません。人間が最も高度な生き物であると決めつけるのではなく、他の動物を観察してみると新たな発見と驚きがまだまだあると思います。あなたが動物を見たり触ったりする機会があるのであれば、見た目などだけでなく、鳴き声にも注目してみると、新たな発見と驚きに気づけるかもしれません。

↑文末表現により、事実と考えを区別して書いている。

＜事実＞ ・～証明されました。 ・～わかりました。

＜考え＞ ・～と考えられます。 ・～かもしれません。 ～と思います。